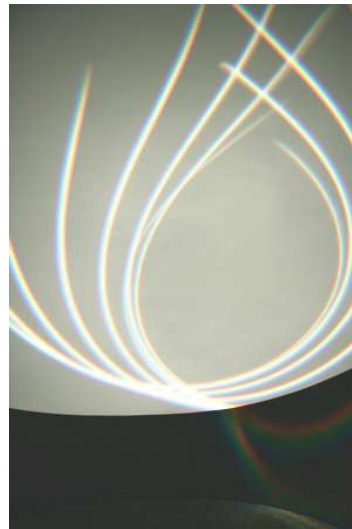




オラファー エリアソン 「Sunspace for Shibukawa」

群馬・ハラ ミュージアム アークに完成



Olafur Eliasson
Sunspace for Shibukawa, 2009
Hara Museum ARC
©2009 Olafur Eliasson

ハラ ミュージアム アーク(群馬県渋川市)では、2009年10月11日(日)より、オラファー エリアソンによる作品「Sunspace for Shibukawa」を常設の屋外作品として一般公開しております。

赤城山を臨む絶好のロケーションに設置されたドーム型のパヴィリオンの中で、鑑賞者は、太陽の光が内部に映し出す虹を見ることになります。

作家自身が「天空を横断する太陽運行の軌跡を、年間を通して視覚でとらえる観測所」と定義するこの作品は、鑑賞者の行動、状況などによって時間とともにダイナミックに様相を変化させます。

この作品は2005年に着手し、構想と細部の検討に4年の歳月をかけて完成しました。

世界各地で人々の記憶に深く刻まれる作品を発表してきたエリアソンにとって、日本の美術館での初めての常設作品となります。

本件に関するお問い合わせ先

ハラ ミュージアム アーク 広報 品川・柳田

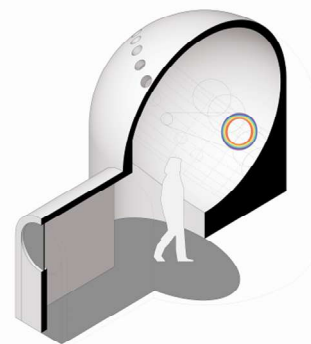
〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449

<http://www.haramuseum.or.jp> E-mail: press@haramuseum.or.jp

オラファー エリアソンによるステートメント

「Sunspace for Shibukawa」



Sunspace for Shibukawa
Isometric projection

ハラ ミュージアム アークの敷地に「Sunspace for Shibukawa」を設置した。それは天空を横断する太陽運行の軌跡を、年間を通して視覚でとらえる観測所である。西洋思想では、空間の概念における時間の重要性は、しばしば忘れられ抑圧されている。すなわち、空間は変化しないものであり、単なる行為や時間の入れ物に過ぎない、ととらえられているのだ。しかし、空間は単に時間の中に存在するのではなく、時間から「成る」のである。空間のあり方は機能によって異なり、また使う人の行動や周囲の環境に左右されるものなのだ。

この作品は、私のスタジオで長らく行ってきたリサーチの結果、生まれたものだ。自然光と影が、われわれの空間認識にどのような影響を与えるか、という研究の礎となるものであり、世界中の様々な場所における太陽運行の軌跡の研究も包含している。私の関心は、地域的な相違を図表化することにある。そこから得られる知識の集積は、われわれを取り巻く環境への認識の相関性を論ずるのに役立つことと思う。

鑑賞者は細い回廊を通して「Sunspace for Shibukawa」の中に入る。内部空間は、一人もしくは少人数で観測するのに適した大きさである。ドーム型の頂部には、幾つかの窓が連なるように配置され、それぞれの窓には円いプリズムがはめ込まれている。晴れた日、ここを訪れた人々は光のアーチを目にすることになる。丸みをおびた白い内壁に、窓の一つから差し込んだ光が全てのスペクトルの色となりイメージを結ぶ。隣接するプリズムから、小さな虹の断片がいくつか現れることもあるだろう。

約2週間おきに、虹色の光は完全な円形をなす。プリズムに対面する壁に円い虹が現れるタイミングを意識して作品の頂部を横断する天窗の配置が決められた。円形の虹を鑑賞できるのは、冬は早朝、秋と春は遅い時間帯、そして夏至は日中最も遅い時間帯である。虹の出現の時間がゆるやかに移ろう中、鑑賞者の「空間と光の体験」は「天空の運動」とそっと重なるのだ。

オラファー エリアソン プロフィール

1967年デンマーク、コペンハーゲン生まれ。光、水、風、匂い、温度など自然界に存在する要素を用いて空間を操り、知覚に働きかける作品を発表している。1989-1995年コペンハーゲンのロイヤル アカデミー オブ アーツで学ぶ。シドニー ビエンナーレ(1998年)、サンパウロ ビエンナーレ(1998年)、カーネギー インターナショナル(1999-2000年)、ヴェネツィア ビエンナーレ(1995年、2003年、2005年)、日本では横浜トリエンナーレ(2001年)など、多くの国際展に招かれ、高い評価を博す。世界の主要美術館にて個展を多数開催。原美術館では2005-06年、個展「オラファー エリアソン 影の光」を開催。昨年は、ニューヨーク市内に4つの滝を出現させるアートプロジェクトを行い、話題を呼んだ。今秋、金沢21世紀美術館にて「オラファー エリアソン あなたが会うとき」(2009年11月21日 - 2010年3月22日)を開催。現在、ベルリン芸術大学でThe Institut für Raumexperimente(空間実験の教室)を開設し教鞭をとっている。コペンハーゲンとベルリン在住。

<http://www.olafureliasson.net/>

ハラ ミュージアム アーク

伊香保温泉の近く、榛名山麓に位置するハラ ミュージアム アークは、原美術館(東京都品川区)の別館として1988年に開館しました。黒い色調で統一されたシャープなフォルムの建物は磯崎新が設計し、豊かな緑に囲まれて美しいたたずまいを見せています。これまで世界の現代美術を集めた「原美術館コレクション」の展示や、さまざまな企画展、教育普及プログラムを行ってきましたが、2008年に大幅な増改築を行い、静謐な和の空間に仕上げた特別展示室「観海庵」と、専門家に調査研究の機会を提供する開架式収蔵庫を新設し、同時にカフェ・ダールとザ・ミュージアムショップもリニューアルしました。「観海庵」落成後は現代美術だけでなく東洋古美術の「原六郎コレクション」も展示しており、時代や地域の枠を越えて多彩な美の表現を味わうことができます。敷地内にはオラファー エリアソンの作品のほかに、ジャン＝ミシェル オトニエルによるムラーノガラスを素材とする大型インスタレーション「Kokoro」(2009年)や、ポップアートの旗手、アンディ ウォーホル「キャンベルズ トマト スープ」(1981年)等の常設屋外作品が点在しています。2010年春にはイ・ブルによるインスタレーションも新たに設置する予定です。

そして美術館の隣には動物たちとの触れあいを楽しめる伊香保グリーン牧場があるほか、古くから湯治場として知られる伊香保温泉も車で5分の近さ。美術館の鑑賞とあわせて休日のやすらぎとくつろぎを得られる環境となっています。

住所: 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1
電話番号: Tel: 0279-24-6585
URL: <http://www.haramuseum.or.jp> BLOG: <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum/>

開館時間: 9:30am - 4:30pm(入館は 4:00pm まで)
オラファー エリアソンの作品は雷雲発生時を除き、開館中に公開しています。

休館日: 11月24日-12月11日(展示替え期間)、2010年1月12日-3月19日(冬季休館)
このほか荒天時、臨時休館する場合があります。

展覧会: 「原美術館コレクション展 日本の現代美術はおもしろい」、「季をめぐる」展
(11月23日まで開催)
「原美術館コレクション展+牧場の想い出絵画コンクール」
(12月12日-2010年1月11日開催)

入館料: 大人(中学生以上) 1,000円、小人(3才 - 小学生)500円 20名以上団体割引あり
ハラ ミュージアム アーク・伊香保グリーン牧場セット券:大人 1,800円、小人 900円

交通案内: JR 高崎駅より JR 上越線・吾妻線に乗り換え渋川駅下車。
渋川駅より「伊香保温泉行き」バスにて 15分、「グリーン牧場前」下車。
関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8km、15分